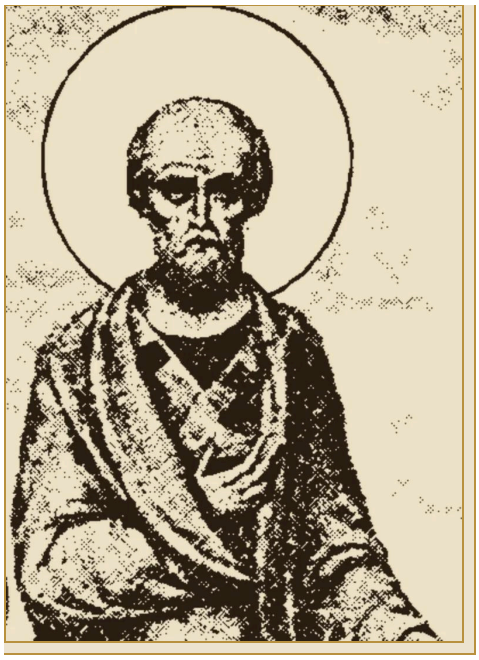


使徒継承

七十人の一人、聖エウオディィオスから、アンティオキア総主教庁とモスクワ総主教庁を経て、現在に至る

この継承の系譜に連なる

主教*

Garland F. Byers, Jr., J.D., D.D.‡

諸国民への主教、使徒的委任のもとに

1. 聖エウオディィオス、七十人の一人 CO

紀元30年頃、七十人の一人としてキリストに遣わされた（ルカ伝福音書10:1）

紀元53年頃、聖ペテロの後のアンティオキア初代主教

この使徒継承の系譜は、紀元30年頃の使徒エウオディィオスから今日にまで及び、2026年現在で1,996年にわたる。

聖エウオディィオスからアンティオキア総主教Gregory IVに至る継承は、アンティオキア・ギリシャ正教会総主教庁が保持するアンティオキア総主教の名簿に従っている。これは、アンティオキア正教会が自らの使徒継承を、アンティオキアの初代主教であり聖エウオディィオスがその後を継いだ聖ペテロにまでたどる、その同じ名簿である。

聖エウオディィオスは、正教会によって七十人の一人である使徒として崇敬されている。正教会は9月7日に彼の祝日を守り、また1月4日に共に記念される七十使徒の中に彼を数えている。ローマ・カトリック教会は5月6日に、アンティオキアの主教聖エウオディィオスとして彼を崇敬している。歴史家エウセビオスは紀元325年頃、彼を聖ペテロに次ぐアンティオキアの初代主教として記録し、紀元380年頃の『使徒憲章』は、聖ペテロが彼を任命したと記録している。

主教職への聖別は、以下に名を挙げる諸教会を通じて、一人から次の一人へと行われた。

この系譜の主教の中には、聖人としても崇敬されている者がいる。その名の傍らの印は、生涯の聖性のみにかかわる。それはいかなる聖別の有効性にもかかわらない。聖人として崇敬されているか否かにかかわらず、表に挙げたすべての主教は、継承において等しくその位置を占めている。

聖 聖人：英雄的な聖性の生涯を送り、今は神のもとにある者として教会が公に崇敬し、その記憶を暦において記念する人。初代教会では、聖人は信徒とその主教たちの称賛によって認められた。のちには、ローマ・カトリック教会では正式な列聖によって、正教会では列聖（glorification）によって認められるようになった。

福者 福者：ローマ・カトリック教会において、列福された人。列福は聖人としての列聖に先立つ正式な段階である。

C ローマ・カトリック教会により聖人または福者として崇敬されている。

O 正教会により聖人として崇敬されている。

CO ローマ・カトリック教会と正教会の双方で聖人として崇敬されている。

赤 殉教者：信仰のために命をささげた者。

誰が聖人であるかについて、諸教会の見解は常に一致するわけではない。ある教会が、他の教会が崇敬しない人を崇敬することもあり、印はそれぞれの聖人をどの教会が崇敬しているかを示している。

アンティオキア

「弟子たちのキリステアンと稱へらるる事はアンテオケより始れり」（使徒行伝11:26）と記されたアンティオキアの主教座。聖ペテロがローマに赴く前に創設した。アンティオキア教会が保持する名簿に従い、聖エウオディオスの後を継いだ聖イグナティオスからCyril Vに至るまでの、アンティオキアの主教および総主教たち。

2. 聖イグナティオス CO 殉教者 68
3. Heron I 100
4. Cornelius 127
5. Heron II 151
6. 聖 Theophilus CO 169
7. Maximus I 188
8. 聖 Serapion CO 191
9. 聖 Asclepiades CO 212
10. Philetus 218
11. Zebinus 232
12. 聖 Babylas CO 殉教者 240
13. Fabius 253
14. Demetrian 256
15. Amphilochius 263
16. サモサタの Paul 267
17. Domnus I 270

18. Timaeus 273
19. Cyril 277
20. Tyrannion 299
21. Vitalius 308
22. 聖 Philogonius CO 314
23. Paulinus 324
24. 聖 Eustathius CO 325
25. Eulalius 332
26. Euphronius 333
27. Flacillus 334
28. Stephen I 341
29. Leontius 345
30. Eudoxius 350
31. 聖 Meletius CO 354
32. Anianus 357
33. Euzoius 360
34. Dorotheus 370
35. Paulinus II 371
36. Vitalius II 376
37. 聖 Flavian I CO 384
38. Porphyrius 404
39. Alexander 408
40. Theodotus 418
41. John I 427
42. Domnus II 443
43. Maximus II 450
44. Basil 459
45. Acacius 459
46. Martyrius 461
47. 縮絨工 Peter 465
48. Julian 466
49. John II 475
50. Stephen II 490
51. Stephen III 493
52. Calandion 495
53. John Codonatus 495
54. Palladius 497
55. Flavian II 505
56. Severus 513
57. Paul II 518
58. Euphrasius 521
59. 聖 Ephraim O 526
60. Domnus III 546
61. シナイの聖 Anastasius I CO 561
62. 聖 Gregory CO 571
63. 聖 Anastasius II CO 殉教者 599
64. Gregory II 610
65. Anastasius III 620
66. Macedonius 628
67. George I 640
68. Macarius 656
69. Theophanes 681
70. Sebastian 687
71. George II 690
72. Alexander II 695
73. Stephen IV 742

74. Theophylact 748
75. Theodore 767
76. John IV 797
77. Job 810
78. Nicholas 826
79. Simeon 834
80. Elias 840
81. Theodosius 852
82. Nicholas II 860
83. Michael 879
84. Zacharias 890
85. George III 902
86. Job II 917
87. Eustratius 939
88. Christopher 960
89. Theodore II 966
90. Agapius 977
91. John V 995
92. Nicholas III 1000
93. Elias II 1003
94. George Lascaris 1010
95. 有德者 Macarius 1015
96. Eleutherius 1023
97. Peter III 1028
98. John VI 1051
99. Aemilian 1062
100. Theodosius II 1075
101. Nicephorus 1084
102. John VII 1090
103. John IX 1155
104. Euthymius 1159
105. Macarius II 1164
106. Athanasius 1166
107. Theodosius III 1180
108. Elias III 1182
109. Christopher II 1184
110. Theodore IV (Balsamon) 1185
111. Joachim 1199
112. Dorotheus 1219
113. Simeon II 1245
114. Euthymius II 1268
115. Theodosius IV 1269
116. Theodosius V 1276
117. Arsenius 1285
118. Dionysius 1293
119. Mark 1308
120. Ignatius II 1342
121. Pachomius 1386
122. Nilus 1393
123. Michael III 1401
124. Pachomius II 1410
125. Joachim II 1411
126. Mark III 1426
127. Dorotheus II 1436
128. Michael IV 1454
129. Mark IV 1476

130. Joachim III 1476
131. Gregory III 1483
132. Dorotheus III 1497
133. Michael V 1523
134. Dorotheus IV 1541
135. Joachim IV 1543
136. Michael VI 1577
137. Joachim V 1581
138. Joachim VI 1593
139. Dorotheus V 1604
140. Athanasius III (Dabbas) 1611
141. Ignatius III (Attiyah) 1619
142. Euthymius III 1635
143. Euthymius IV 1636
144. Macarius III (Zaim) 1648
145. Neophytos I 1674
146. Athanasius IV (Dabbas) 1686
147. Cyril V (Zaim) 1694

正教会総主教庁

1724年以降のアンティオキア・ギリシャ正教会総主教たち。SylvesterからGregory IVに至る。Gregory IVは1913年、ロシア訪問中に、ノヴゴロドの聖ソフィア大聖堂でAlexy (Simansky)を主教に聖別した。

148. Sylvester 1724
149. Philemon 1766
150. Daniel 1767
151. Euthymius 1792
152. Seraphim 1813
153. Methodius 1823
154. Hierotheos 1850
155. Gerasimos 1885
156. Spyridon 1892
157. Meletius II (Doumani) 1899
158. Gregory IV (Haddad) 1906

モスクワとアメリカ合衆国

後のモスクワおよび全ロシアの総主教 Alexy から、各主教はその前に掲げた主教によって聖別された。

159. Alexy (Simansky)、後のモスクワ総主教 Alexy I 1913
160. John (Wendland) 1958
161. Joseph John Skureth 1966
162. Nils Bertil Alexander Persson 1989
163. Samuel Guido, Jr. 2004

164.

Garland F. Byers, Jr.

2013

モスクワ総主教と共有する継承

現在のモスクワおよび全ロシアの総主教であるキリル（Kirill）総主教とバイヤーズ主教は、聖エウオディオスからモスクワ総主教 Alexy I（1913年アンティオキア総主教 Gregory IV により主教に聖別、1945–1970年モスクワ総主教）に至るまで、同一の使徒継承の系譜を共有している。総主教 Alexy I は、両系譜の源となる主教たちを自らの手で聖別した。すなわち、キリル総主教の系譜においては府主教 Nikodim (Rotov)を1960年に、バイヤーズ主教の系譜においては府主教 John (Wendland)を1958年に聖別した。

聖職

按手

2008年8月17日、按手により。ペンシルベニア州パーマートンのSt. Paul's Lutheran Orthodox Chapelにて。

主教聖別

2013年4月20日、聖餐の執行の中で按手により。St. Paul's Lutheran Orthodox Chapel（この日はペンシルベニア州スラティントンのAmerican Legion Post 16で集会）にて。

主聖別者

主教 Samuel Guido, Jr.

共同聖別者

Bradley A. Varvil 主教

Michael Byus 主教

James Thompson 主教

按手および主教聖別の証書は、主教聖別の写真とともに、主教についてのページに掲載されている。

奉仕

2013年4月20日、Lutheran Orthodox Church, Inc. において主教聖別を受け、その後同団体において Western North Carolina 教区の大主教を務めた。バイヤーズ主教は現在、同団体に所属していない。

名誉神学博士（honoris causa）、Lutheran Orthodox Church, Inc. より授与、2013年4月20日。



本ページの日本語の聖句は、すべて文語訳聖書（旧約：明治元訳、1887年／新約：大正改訳、1917年、日本聖書協会）から引用しています。いずれもパブリックドメインです。本文：ウィキソース。聖句は抜粋して引用しており、省略箇所は「……」で示しています。

聖エウオディオス。ロシアの『聖人伝』（モスクワ、1903–1911年）の9月7日の祝日の項にある聖使徒オネシポロとエウオディオスの図より。出典：Wikimedia Commons、パブリックドメイン。原画からトリミング、色調補正およびサイズ変更を施した。